

TOPICS

★「ものづくり試作開発支援センター」整備事業に採択

研究開発型中小企業のための高度かつ先端的な研究機器等を公的研究機関に設置し、開放するための「ものづくり試作開発支援センター」整備事業（中小企業事業団）に、当センターから提案していた「先端加工機を用いた地域加工業界の生産技術力向上のためのプロジェクト」がこのほど採択されました。

このプロジェクトは、超精密加工機、工芸部品自動加工システム、評価システムなどを導入し、県内企業へ研修、技術指導を行うとともに、共同研究を行います。また、業界と一体的に研究開発することによって、現状工程の生産技術力を飛躍的に向上させ、さらに新規用途の開拓、新製品の開発、新規事業の創出を目指すものです。

★中小企業創造基盤技術研究事業に採択

中小企業と大学・公設試験研究機関等の連携により、研究機関が有する優れた研究成果を、中小企業が実用化できるレベルまで発展させる研究開発を行い、中小企業による事業化が可能な創造基盤技術を育成し、中小企業の創造的事業を促進することを目的とする「中小企業創造基盤技術研究事業」（新エネルギー・産業技術総合開発機構）に、当センターから提案していた「微粒シラスパルーンを用いる高級軽量セラミック製品の製造技術に関する研究」がこのほど採択されました。

このプロジェクトでは、微粒シラスパルーンと陶磁器原料を複合化して、断熱性、低吸水性、高強度、高反射率など機能性に優れた高級軽量セラミック製品の開発を行います。

またスラリー調製技術、成形技術、施釉技術、焼成技術、コーティング技術を研究し、試作品の断熱性、吸水性、強度、光反射率、熱衝撃性等の評価・解析を行い、機能性電気製品（ダウンライト等）や高級飲食器（航空機用飲食器、薩摩黒じよか等）の製造に応用します。

★生涯学習県民大学の開講

平成10年度生涯学習県民大学の「知って得するくらしの科学」講座を、今年も7月21日から8月10日まで3週間にわたり、当センターで開講しました。生涯学習ブームを反映して申込が多く定員の1.7倍の51名の申し込みがありました。

今回の講座では、外部講師9名による「エクステリアウッドのいろいろ」、「楽しい木工」、「段ボールを使った小物作り」、「機能性食品のはなし」、「食品の中の糖質」、「高熱に耐える高純度材料について」、「日本の音楽と西洋の音楽の楽しみ方」、「溶接今昔」、「日常における統計学」、所内講師5名による「あなたが作る木製エクステリア製品」、「身近な草木でハンカチ

を染めよう」、「金属のいろいろ」、「大島紬と機械技術」、「楽しいパソコン」、の計14科目について講義や実技が行われました。



★研究成果発表会の開催

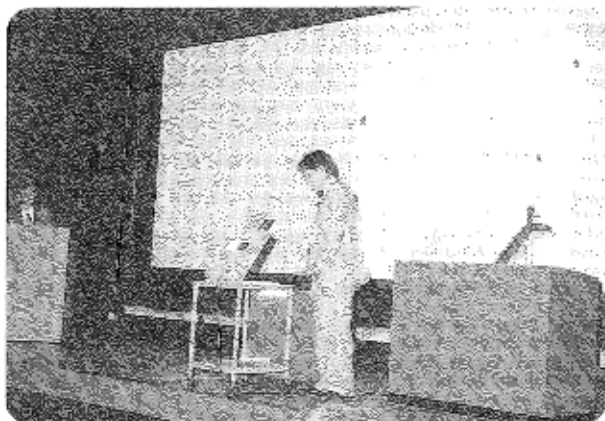
平成10年度の研究成果発表会を「活力ある地域産業をめざして」をテーマに、7月9日に県歴史資料センター黎明館で開催し、県内企業の方々をはじめ各方面から141名の参加を頂きました。

特別講演として、鹿児島大学教育学部の梅田晴郎教授をお招きし、「自動車のデザイン開発を通して考えたデザインとは」と題して貴重な体験談を交えた講演をしていただきました。

研究発表は、技術指導・共同研究事例として

「品質工学によるコンクリートの強度向上と安定化に関する研究」と「砕石廃泥を用いた窯業製品の開発」の2テーマ、研究開発事例として「木製エクステリア研究会活動報告」、「新蒸留法による酒質の改善研究」及び「高色素甘しょを利用した発酵飲料の開発」の3テーマについて口頭発表を行いました。

また、10テーマについてパネル発表を行いました。



★しょうちゅう乙類技術者養成研修の開催

平成6年度から5カ年計画で行ってきた日本酒造組合中央会主催による「しょうちゅう乙類技術者養成研修」が、今年も8月4、5日および6、7日の2班に分かれて、当センターで開催されました。

この研修の目的は、本格しょうちゅう製造技術者の技術力向上であり、具体的には製造管理に必要な分析法、微生物の取扱い法、官能検査法、製造操作等を実習により体得するものです。

講師は熊本国税局鑑定官室、県酒造組合連合会、当センターおよび酒造メーカーの熟練技術者が担当しました。

最終年度となる今回の研修内容は、排水処理関連および海洋投入禁止で問題になっているしょうちゅう蒸留粕の分析・実習と世界の蒸留酒、リキ

ュールの利き酒を行いました。

参加者は、それぞれ15名、20名、合計30名で、2日間の研修を熱心に受講しました。

